例林カンク62p
左氏伝p 周 六尺四方を歩 歩百を畝
〃 299p 周 升は0.194ℓ
広辞1906p
1ひろ=6尺=1.818m
or =5尺=1.515m
㊄1461p-1/2 1里=9×15×22.5cm
1,480p
あた 咫 記(上)51p
紀下 561p
古語 23p
広2273p
太伯之後 魏志倭92p

長さの単位のまとめ

■~~メートルのように~~倭国では、「太伯之後」と自称する者の子孫達が、実に営々と、周代の長さの単位を用い続けたように推察される。

■では、ここに、これまで述べた長さの単位（倭国で用いられたと思われる長さの単位）を要約しておくことにしよう。次のとおりである。

咫＝一八センチ（＝八寸＝8/10尺）

尺＝二二・五センチ

歩＝一・三五メートル（＝六尺）------測地用

尋＝一・八〇メートル（＝八尺＝後の約一間）------建築用他

丈（十尺）＝二・二五メートル

里＝三〇・三七五メートル~~（もしくは三〇・三〇三）~~

■~~メートル~~（約三〇メートル）------測地用

■そしていつの頃からか、「一里の百分の一」、つまり~~（三〇・三七五メートル）の百分の一、つまり、~~

（倭）尺＝三〇・三七五センチ（曲尺の三〇・

改行
三〇・三センチ
広441p
㊄1434p
← 旅略 ㊄1554p-1/2 887

コクヨ ケー20 20×20

H19(2007) 2.2(金)
H30(2018) 3.26(月)～3.28(4回)
令和元(2019) 6.2(日)～6.2(3回)
令和2.1.5(日)～1.7(4回)
令和2.9.15(火)～

㊟1461P－5/13　1,481P　30.375－30.303＝0.072　30.303－29.7＝0.603　㊟1461P－5/13　トル

という値が用いられるようになったのではなかろうか。

＊今後の究明を待ちたい。（㊟40P）

●なお後年、唐の尺度である「大尺」と「小尺」が移入された。

●従来から用いていた「倭尺」（三〇・三七五ｾﾝﾁ）と、唐の「大尺」（三〇・三ｾﾝﾁ）とはほぼ同一の長さだったので、違和感もなく受け入れられたことであったろうか。

●もっとも、大尺は約二九・七ｾﾝﾁ程度とする見解もある。（「まぼろしの古代尺」新井宏①吉川弘文館、五頁参照）

●この場合、曲尺（一尺＝三〇・三〇三ｾﾝﾁ）との差（約六ミリ）は、大きすぎるようである。

●あるいは、倭人達が用いていた「倭尺」（一尺＝三〇・三七五ｾﾝﾁ）が、——自然のなりゆきとして、〇・七二ミリ小さい曲尺（一尺＝三〇・三〇三ｾﾝﾁ）に移行したのだろうか、とも思われるが定かならないことである。（既述）

＊今後の究明を待ちたい。（㊟561P）

（＊）

コクヨ　ケ－20　20×20

銅1升は1.8リットル 斗の1/10
紀下524P チェック済
・紀小末 顕宗 485～487
・第1表 506～508？
紀上524P済
大カンワ1038P 紀下457P OK
斛（石）＝10斗 斗＝10升＝18.039l

1482P－1/2

S file 1482P

広1986P 平城への遷都 和銅3年（710）

重量の単位、および貨幣

【貨幣】

① 平城へ遷都（七一〇）直前の和銅元年（七〇八）に、銭貨「和同開珎」が鋳造された。

通常、これが我が国で初めて広く流通した鋳造銭であるか、と考えられている。

② 近年、奈良県明日香村の飛鳥池遺跡から、天武朝ころに造られたと見られる「富本銭」三十三点が出土した。（「朝日新聞」平成十一年一月二十日付参照）

広2379P

③ 天武紀十二年（六八三）四月十五日条には
「今より以後、必ず銅銭を用ゐよ。銀銭を用ゐること莫れ」
とある。

④ また、顕宗紀二年十月条に、
「稲斛（石＝十斗＝一八〇リットル）に銀銭一文をかふ」
と記されている。

＊顕宗朝（五世紀末～六世紀初頭）当時、すでに「銀銭」があったの~~かも知れない~~だろうか。

「鋳銭司」

① 持統紀八年（六九四）三月二日条に、

「かも知れない」
① 1486P－1/4 8行

・交ふ？
・買ふか どちらか不明

広365P 1951P 物々交換

889

Spil 1484P　短冊 1410P　鉄鋌　倭人伝を読む 52P　こと
696P−131　1482P−2/2　「奈良の都」74P　続紀録(上)21P　紀下524P

「直広肆大宅朝臣麻呂、ーーー等を以て、鋳銭司に拝す」

そして

とある。

②続日本紀の文武天皇三年（六九九）十二月二十日条に、

「始めて鋳銭司を置く。直大肆中臣朝臣意美麻呂を長官とす」

とある。

※これらの~~こと~~文献や出土品は、銭貨の鋳造が、かなり古くから行なわれていたことを思わせる。

タイトル　倭人伝を読む会

【鉄鋌】

~~さて、~~川崎製鉄常務取締役村上英之助氏は、次のように述べている。

「五世紀半ば以後の各地の古墳から出土する（中央がやや狭くなった短冊形の鉄鋌（薄い鉄板、長さはさまざま、普通は三〇ー四〇センチ）は、従来、鉄器をつくる材料とみられていた。

だが鉄鋌をよく調べてみると、規則的な重量をもつことがわかった。

大きく分類すると大型、中型、小型の三グループがあり、それぞれのグループ内で二倍、

大カンワ2321P 鉄 テツ テイ
大カンワ2305P 鋌 チョウ テイ ジョウ テイ
大カンワ2300P 銀 ゴン ギン

1.483P　団1485P 1489P

小林 米の表
1両＝13.92g
1斤＝16両＝222.72g

北魏は分らない 省いておきたい H10.5.1 団

S file 1484P
団1484-2/2右

三倍、四倍と極めて正確な数値が得られた。

第17表のとおりである。

ここに中型を例にとれば、

(1)最小のものは、――　一一・一三五ムグラ

(2)次の大きさのものは、――　二二・二七ムグラ

(3)その次は、――　三三・四一ムグラ

と、二倍、三倍となっていた。（二二・二七ムグラ）

これらの内、中型で二番目の大きさのものは、後漢・魏・晋など古代中国の重量の単位であった一斤（二二二・七三ムグラ）と非常に近く、おそらくこれが基準とされたのであろう。

ところで、朝鮮半島で見つかっているものは~~、~~中型と大型であり、わが国で発掘されているのは~~、~~小型と中型であることから推察すると、（こと）

少なくとも小型は、わが国でつくられた可能性が高いように~~間違いない、~~と見われる。

尚、歴代の貨幣に銀鋌というもの（あって、これが）が現存しており、その形は鉄鋌とウリ二つである。銀鋌は、北魏時代（三八六〜五三四年）にはすでにつくられてい

東洋史辞 651P

891

ダブリ（不要）

㊞696p-11/11

1,484p-1/2

・この写真カラーで掲載すること！
・裏面の字等が見えないようにして下さい。

物認可　朝日新聞　（夕刊）　2010年

平成22年（2010）10月9日（土）夕刊

・右頁上部に写真のみを大きく掲載下さい。（新聞の文字は不要）

文字不要

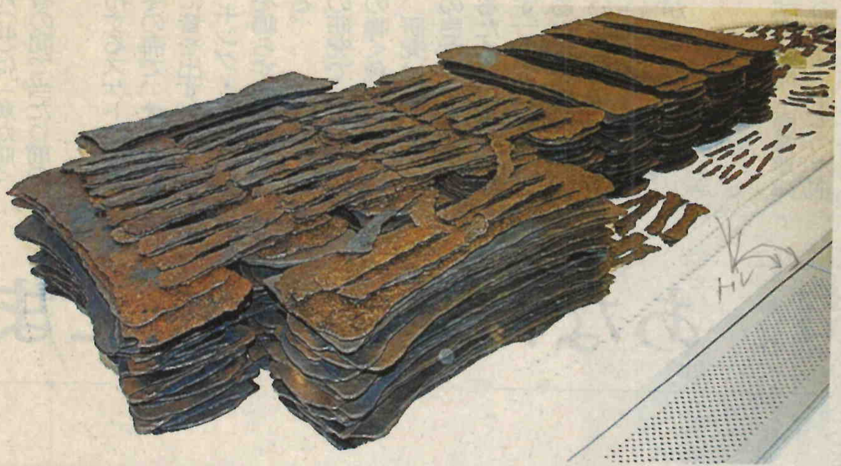
鉄 それは王の証し

ヤマト王権の成長過程探る

12月5日まで

大阪府立近つ飛鳥博物館

写真を載せる。



世界遺産の暫定リスト入りした大阪の「百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群」。この巨大古墳に眠る大王たちは「鉄」を握ることで支配を強めたとされる。こうしたヤマト王権の成長過程をさぐる特別展「鉄とヤマト王権―邪馬台国から百舌鳥・古市古墳群の時代へ―」が大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府河南町）で開かれている。

出展の目玉は、佐紀盾列（さきたてなみ）古墳群（奈良市）の大和6号墳から出土した鉄の薄い延べ板「鉄鋌（てってい）」（宮内庁書陵部所蔵）＝写真。全長255㍍の巨大前方後円墳、ウワナベ古墳（5世紀、陵墓参考地）の陪塚とされる大和6号墳（直径約25㍍の円墳）が戦後、工事で破壊される寸前に大量の鉄鋌が見つかり、かろうじて発掘・保存された。

鉄鋌は、鉄の道具を作るための鉄板（地金）。最大長44㌢の大鉄鋌282枚、長さ15㌢前後の小鉄鋌590枚などが埋納されていた。総重量は推定140キログラム。6号墳に人を埋葬した跡はなく、鉄鋌を中心とする器物を埋納するためのものだったらしい。

鉄製の武器や武具、農工具などは、百舌鳥・古市古墳群からも大量に出土する。同博物館の白石太一郎館長（考古学）は「これらの古墳に眠るヤマト王権の大王たちは、まさに鉄を掌握した大王であった」と言う。資源の乏しい日本列島で鉄資源の確保は容易ではなく、石器や木器が主流だった時代から鉄の大量保有に至る歴史は、まさに王権の形成・成長過程そのものだったとみる。

特別展では他に、豊中大塚古墳（同府豊中市、4世紀末～5世紀初め）の「石製柄付短剣（つかつきたんけん）」「甲冑（かっちゅう）」「鉄刀」（すべて重文）、マロ塚古墳（熊本市、5世紀）の「小札鋲留眉庇付冑（こざねびょうどめまびさしつきかぶと）」（重文）など550点が展示される。

12月5日まで。休館は毎週月曜（祝日の場合は翌日）。11月3日に調査成果報告会「鉄をおさめる古墳・鉄器をつくる遺跡」、同23日にシンポジウム「鉄とヤマト王権」（基調講演＝豊島直博・文化庁文化財調査官、東潮（あずまうしお）・徳島大学教授）もある。問い合わせは同館（0721・93・8321）へ。

（大脇和明）

892p

写真図版225 佐紀盾列（さきたたなみ）古墳群、大和6号墓出土の「鉄鋌（てってい）」

「朝日新聞」平成22年10月9日付〈ヤマト王権の成長過程探（さぐ）る〉参照。

- 全長255mの巨大前方後円墳『ウワナベ古墳』（5世紀）の陪塚（ばいづか）とみられる大和6号墳（直径約25mの円墳）から、大量の鉄鋌が見つかった。
- 最大長44cmの大鉄鋌282枚、長さ15cm前後の小鉄鋌590枚などが埋納されていた。総重量は推定140kg。
- 6号墳に人を埋葬した跡はなく、鉄鋌を中心とする器物を埋納するためのものだったらしい。

・左頁上半分に掲載下さい。（図・表共）

（参考）

※原寸：6cm×5.2cm　外観が分ればよい（小さく掲載下さい）1,484P−2/2

原の辻出土の鋌（けん）は、1508　H14.9月発行分11頁

たようであり、それをまねて鉄鋌（てってい）が誕生（たんじょう）した

のではなかろうか」

という。（「朝日新聞」昭和五十九年三月十一

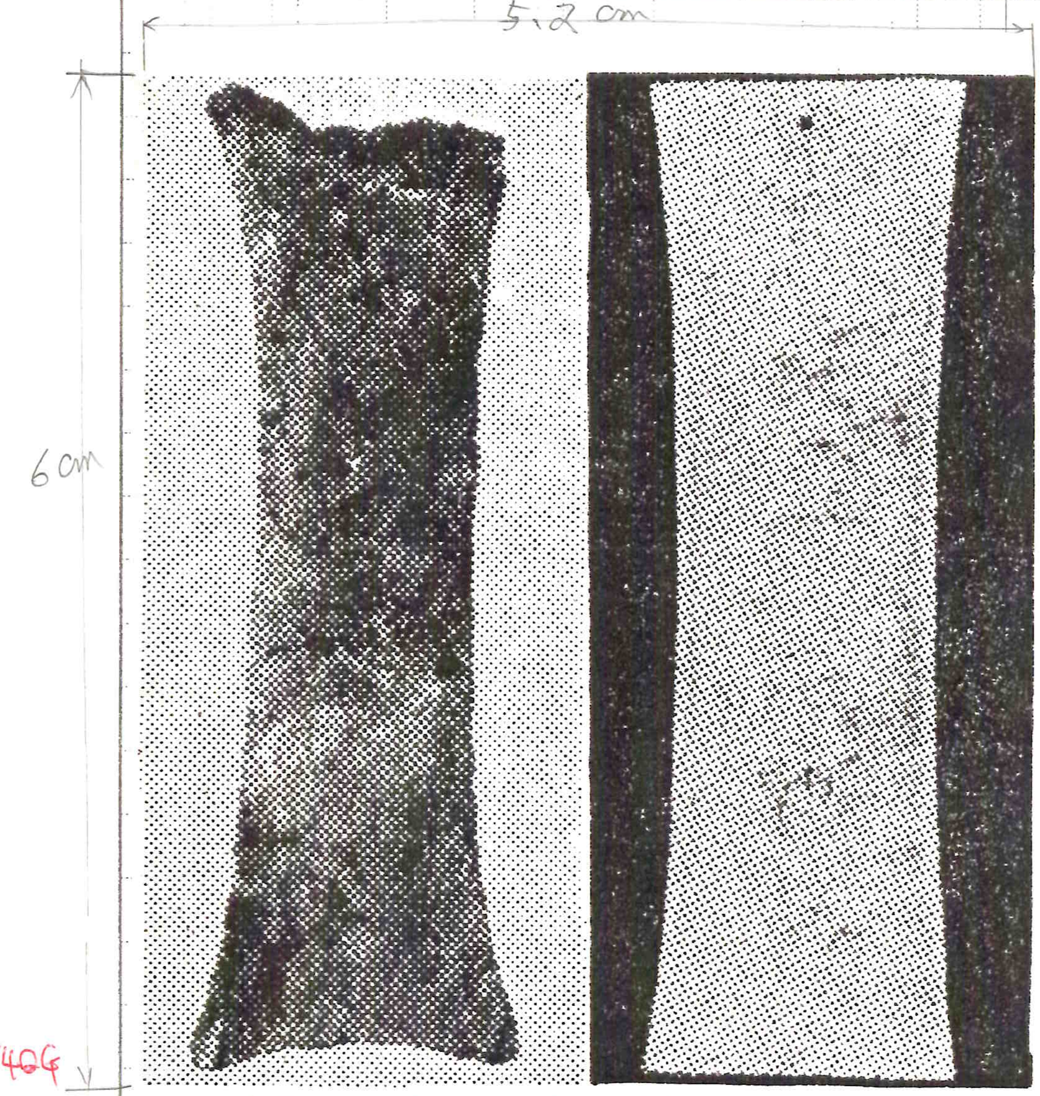
日付〈「和同開珎」前に国産貨幣（こくさんかへい）あった〉参照）

14QG

第17表　鉄鋌（てってい）の重量

小　型	中　型	大　型
11.11g	111.135g	1111.35g
22.23	222.27	2222.70
33.34	333.41	3334.05
44.45	444.54	4445.40
	555.68	
	666.81	
注 88.91		

12QG
- 村上英之助氏が測定した鉄鋌一枚の重さを示す。



14QG

写真図版226　大和6号墳出土の鉄鋌（左）と唐代の貨幣銀鋌

13QG

『朝日新聞』昭和59年3月11日付〈「和同開珎（わどうかいちん）」前に国産貨幣あった〉参照。

11QG『日本製鉄史論集』（たたら研究会刊）参照。

コクヨ　ケ−20　20×20

工 史料による日本の歩み 236P上
三国志-Ⅱ-305P
三国志(訳)序文①-587P
鈞 小林998P
計算では 222.72g
新聞下から2段目
$\frac{6681.9}{16}$ = 222.738（1斤） 1,485P
$\frac{222.73}{16}$ = 13.920625g（1両）
小林 未114P
賛同 玄928P

~~非常に説得力のある見解であり、「鉄銭は貨幣だろう」という考え方に心引かれる。~~

~~とはいえ~~もっとも ※ 「重量の単位」は、さらに古く遡り、~~周の時代に定められていて~~

~~うである。~~

(1) 周代の一両は、一四・九三g

(2) 秦・前漢の一両は、一六・一四g

~~であった~~だ。

(3) ~~また~~つづく新・後漢・魏・晋・隋（後半の六〇三〜六一八年）の時代には「~~参考に述べると、~~坂

~~のような関係にあった」という。~~（「漢和辞典」小林信明、小学館〈歴代度量衡変遷表〉参照）

・一両＝一三・九二g

・一斤＝一六両＝二二二・七三g

・一鈞＝三〇斤＝六六八一・九g（※これが、鉄銭中型の二番目に小さいものに相当する）

という関係にあった。（「漢和辞典」小林信明、小学館〈末尾の「歴代度量衡変遷表」参照）

~~因みに述べると~~

「三国志」弁辰条に

「国出ス鉄ヲ。韓・濊・倭皆従テ取ルヲ之ヲ。諸ノ市買ニ皆用ル鉄ヲ。

如シ中国ノ用ルガ銭ヲ。又以テ供給ス二郡ニ。」

（国、鉄を出す。韓・濊・倭みなしたがってこれを取る。物の交易に

大カンワ 2077P
大カンワ 706P
玄 703P
玄 1168P
玄 1489P -1/5 13行
玄 1489P -1/5 14行

製鉄所跡については第２巻で詳述した。

78
−25
53

こうさい 鉱滓 H7.1.13付 ルビ削

S file 1486P

1486P

興味深い ⊕1488P 10行

九州各地 1、2棟

S file 1486P 福岡の割り次 次の2行の圏に対応。

「のかも知れない」 ⊕1488P 5行 ⊕1490P 6行

⊕937P 1/2, 941P 原文 ~~⊕1433P 2/3~~ タイトル⊕930

はすべて鉄を用いて、ちょうど中国で銭を用いるようであり、またその鉄を楽浪と帯方の二郡にも供給している」とある。（第十二章〈「狗邪韓国」奪還〉の項において一部既述）（第262図〈帯方郡から倭国への里程〉（想像図）参照）

■韓（弁辰）のみならず、弁辰の鉄の利権を持つ濊や倭でも、物の交易にはすべて鉄を用いて、ちょうど中国で銭を用いるような用い方をしていたということであったろうか。のかも知れない。

■〔製鉄〕弁辰で鉄鉱石を入手したからには、どこかで製鉄していた筈である。

●朝鮮半島内のどこかで製鉄していたのか、九州本土へ運んでいたのか等の詳細については分からない。

●熊本県玉名郡袋明町の下前野遺跡の弥生時代の地層から、鉄滓が見つかっており、たという。興味深く思われる。（「朝日新聞」平成二年十月十一日付〈製鉄炉跡各地で発見〉参照）

●一九七八年（昭和五三年）に福岡県春日市の赤井手遺跡で出土した大陸製の鉄材は、弥生中期後半のものとみられている。

また、これまでに九州北部などで確認されている弥生中期後半の鉄の工房は、いずれも一、二棟の小さな規模で■あり、出土している鉄の破片も微量だという。（「朝日新聞」平成七年十月二十七日付〈丹後に最古の鉄工房〉。巻頭の第■表参照）

「小町」25頁 第3表に

コクヨ ケ−20 20×20

895

「のかも知れない」 ~~⊕1490P~~ ⊕1488P 5行

計算｛隋制半両＝41.76g　668.2／2 ＝334.1g
1斤＝16両＝668.16g
冊1485p（隋後半）
668.19　334.1

1.487p−1/2

HL

【分銅】

□近年、平城京羅城門近くの井戸跡（地下約二メートル）から、奈良時代後期のものとみられる完全な形の「てんびんばかり」用分銅が出土した。高さ四・八センチ①胴部最大直径四・六センチの壺形をしているその銅製の分銅の重さは三二九・一グラムである（以下、写真図版227参照）

（前半の五八一〜六〇二年）

●隋制の一斤（六六八・一九グラム）の半分（三三四・一グラム）に当る八両とほぼ一致するので①この当時には隋制が採用されていたの~~であ~~だろうと考えられている。（「朝日新聞」平成元年一月十四日付〈平城京跡で最古の分銅〉参照）

広p133

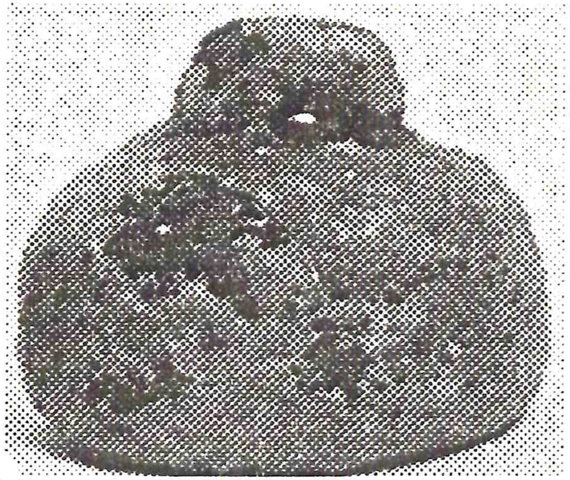
■とはいえ、この完全な形状の分銅の重さ（三二九・一グラム）は、古代の中型

896

1,487p-2/2

※頁の上半分に、

※この三つの分銅を、まとめて掲載下さい



13QG 大阪府松原市で出土した分銅

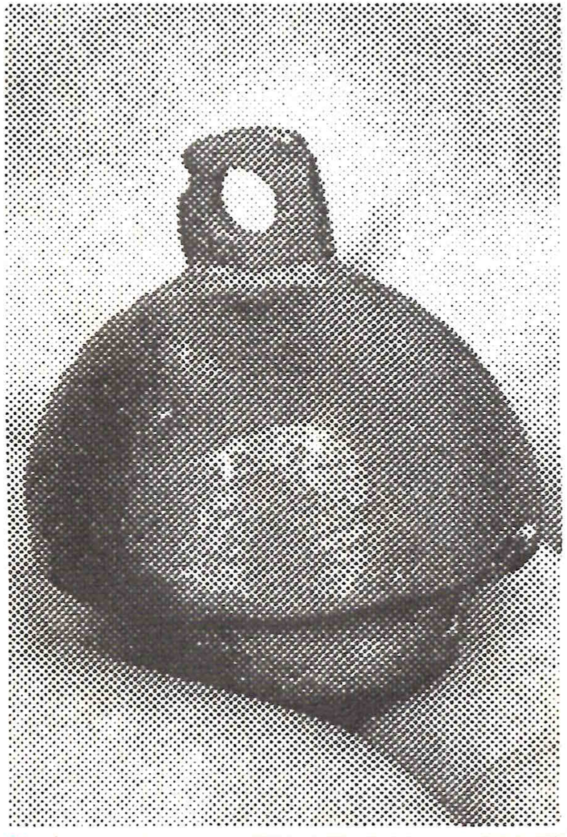
12QG 高さ2.3cm、底の直径2.5cm、重さ60.5g

14QG

写真図版227

ふんどう

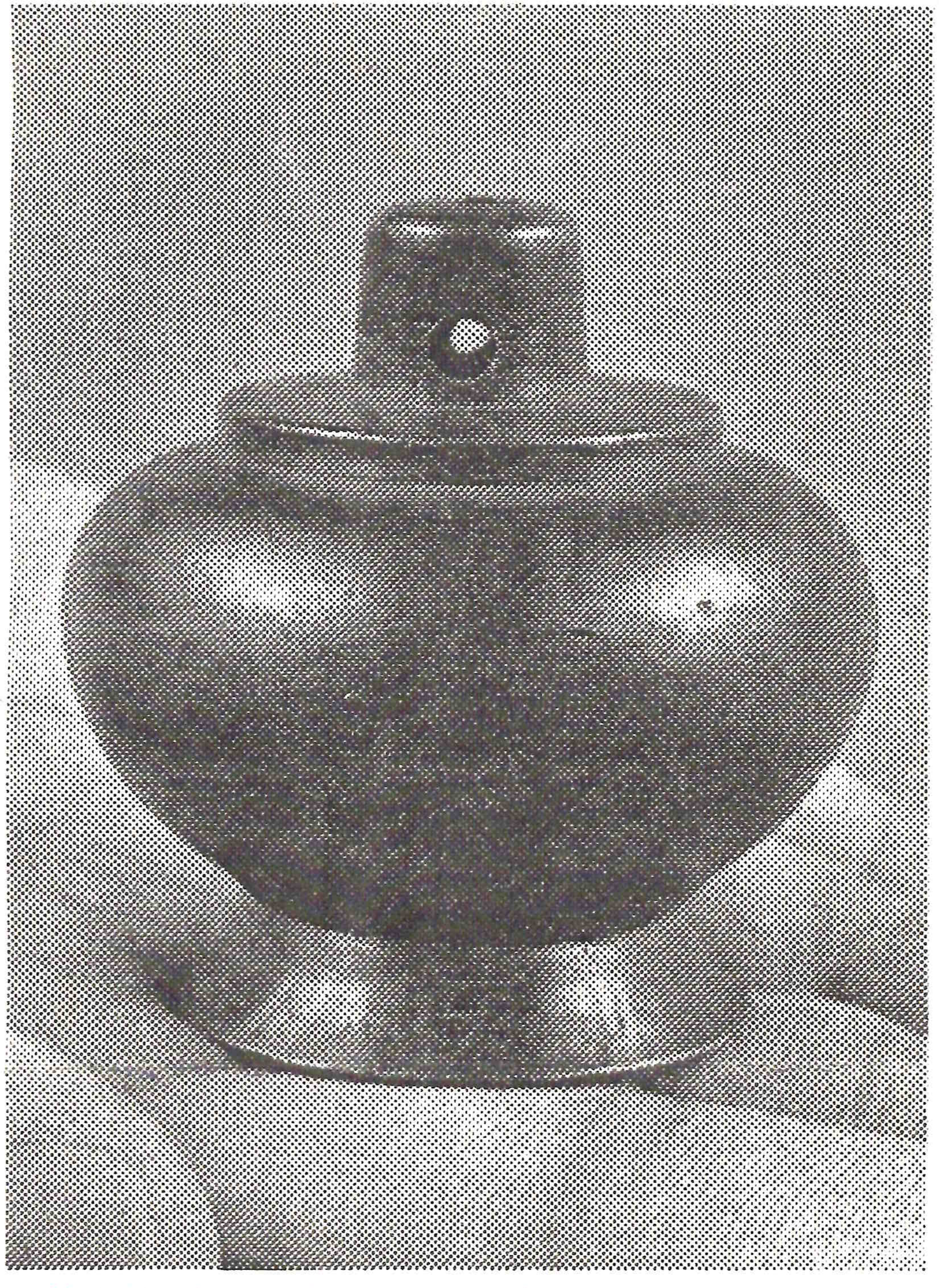
各種分銅



13QG 奈良県大和郡山市出土の分銅

12QG 高さ2.6cm、最大幅2.8cm、重さ40.04g

897



13QG 平城京跡から出土した壷形の分銅

12QG 高さ4.8cm、最大幅4.6cm、重さ329.1g

㊟1484ᴾにまとめあり

小林洋和の末尾
隋 ① 41.768 ② 13.928 唐 37.308

1488ᴾ

改行

新聞 こと 上段4行目「さおばかり用の分銅が出土した」とある

まつばら かわあい 松原 河合 市町村名 127ᴾ

天つき 改行

こと のだろうか 1級3行 「のかもしれない」

㊟1484ᴾ表 1486-1/4 8行 1490 6行

の鉄鋌のうち、三段目に記載されている重さ（三三・四一グラム）の方により近い。（第17表参照）

●あえていえば、古代の重量単位~~の系統~~を引くも~~の~~が、奈良時代に於ても継続して採用されていたということを、おぼろげながら示唆しているのではなかろうか~~など~~と想像される。

⑫ 大阪府松原市河合三丁目からは、六〇・五グラムの「さおばかり」用の分銅が出土した。飛鳥時代後期て奈良時代の土師器や須恵器が同じ場所で発掘された。

●ここに興味深い点がある。この分銅は（中国周代の）春秋時代や秦時代の分銅と特徴が似ている~~というのである。~~鈕部（紐を通す穴のついたつまみ部分）および半球状の胴部はずんぐりしており、足部（円柱、円錐形等の突出部）が無い。また、隋（前半）の重さの単位である一両は約四一・七六グラム、唐の一両は約三七・三グラムなのに、この分銅はそれより重く、両の倍数にもなっていない（「朝日新聞」平成元年五月二十一日付〈日本最古の分銅出土〉参照）。

●しかし、第17表の中型最大の鉄鋌（六六

㊟1482ᴾ -2/2 14行

1級1行 記されて

㊟1484ᴾの表

㊟1482ᴾ-2/2 14行

新刊 -83ᴾ

広ᴾ 1595

12.5 OM

コクヨ ケ-20 20×20

898

小林 末 08

のだろうか 前頁18行 1級3行

㊟1484ᴾ-2/2

44.45　20
66.68　30
222.27　100
333.41　150

㊐1485p　後漢・魏晋
十両＝13.92g
1斤＝16両≒222.73g
1,489p -1/5
㊐1483p　㊐1484p

前頁6行へ
60.5g

表中に示されていないが小型の六番目の重さに相当（六六・六八グラム）

六・八一グラム）の約十分の一に近いといえよう。分銅の全面に錆がつき、少々剥離して六〇・五グラムになったのであろうか。

③奈良県大和郡山市九条町からは、（平城京跡のマンション建設現場）奈良時代中期の「てんびんばかり」用分銅（重さ四〇・〇四グラム）が発掘された。（「朝日新聞」平成二年九月十四日付）（最古最小の分銅参照）

・この分銅は隋（前半）の一両（四一・七六グラム）~~唐の一両（三七・三グラム）~~とほぼ似ているが、~~あえていえば、~~第17表の小型の鉄錘中の上から四番目（四四・四五グラム）に似ているともいえよう。

■あるいは、この当時の日本の重量の単位は一斤＝二二二・二七グラムが基準とされていたのではあるまいか。

■とすると、後漢・魏・晋・隋（後半）の一両＝一三・九二グラム。一斤＝一六両＝約二二二・七三グラムよりも、やや少なめの基準であったことになる。

■尚、日本国内で出土した分銅三個の重量比は、〈一斤（二二二・二七グラム）＝100〉とするとき、次のような「比例関係」になる。

①四〇・〇四グラム（少し欠損有り）。元四四・四五グラムか。[20]

②六〇・五グラム（全面に錆有り）。元、六六・六八グラムか。[30]

㊐1483p　1斤＝222.73g　㊐1485p 10行　899　前頁16行

H19(2007)2.4(日)
H24(2012)7.31(月)

・福岡多々良込田遺跡
・滋賀県余呉町桜内
・松江市出雲国府跡

都日H元年1.14朝
時代が確定していない。
掲載ない。

1,489P－2/5

「のかも知れない」
㊥1486P－1/4 8行
㊦1488P 5行
前頁㊥1489P 11行 と、文章が両者似している

③三二九・二グラム（ほぼ完全（かんぜん）な形）。■三二三・四一グラムに近似（きんじ）。[150]

■まだ発掘（はっくつ）例（れい）が少（すく）なく、仮定（かてい）にすぎないが、

古墳（こふん）時代・引き続いて、飛鳥（あすか）時代・奈良（なら）時代

を通（とお）してずっと引（ひ）き続（つづ）き、重量（じゅうりょう）の単位（たんい）の基準（きじゅん）は、

〈一斤（きん）＝二二二・二七グラム〉

ほどと定（さだ）められていたのかも知れない。

■もしかしたら、

〈我が国の、重さの単位も、秦始皇帝以前にさかのぼって考察しなければならないのではなかろうか〉

と思われる。（要検討）

※

〈弥生時代後期の青銅製「権（ケン）」（おもり）〉

900 「のかも知れない」㊥1486P－1/4

いたのかも知れない。故6行

㊉1490ᴾ-3/6, 6/6 トル

原の辻は殷民系

1,489ᴾ-3/5

こと

(1)-351ᴾ

■弥生時代後期の「権」と見られる青銅製品が、壱岐島「原の辻遺跡」の環濠内中央部祭儀場跡付近から出土した。（写真図版20〈原の辻遺跡の全体写真〉、写真図版228〈権の写真〉参照）

・「権」は、重量を量る秤に用いられた〈おもり〉である。

秤（おもり）

・後漢時代（二五～二二〇）のものと推定されるが、原の辻遺跡出土の権の重量一五〇グラムは後漢時代の度量衡と一致しないことから、定量のおもりを用いない棹秤の可能性が指摘されている」という。（「壱岐・原の辻遺跡」長崎県教育委員会、平成十四年七月発行、十一頁参照）

■前述のとおり「原の述遺跡」には「扶余系殷民達と遼寧系殷民達（箕子の子孫達）」が住んでいた、と思われる。（第二章〈壱岐島の「原の辻遺跡」において既述）

・どちらの種族が、この「権」を用いていたのかは分からない。

※扶余系殷民あるいは遼寧系殷民の子孫達が「一両（一四・九三グラム）の約十倍であるこの権（一五〇グラム）を用いていたのかどうか」要検討。

新や(1)350ᴾ

901

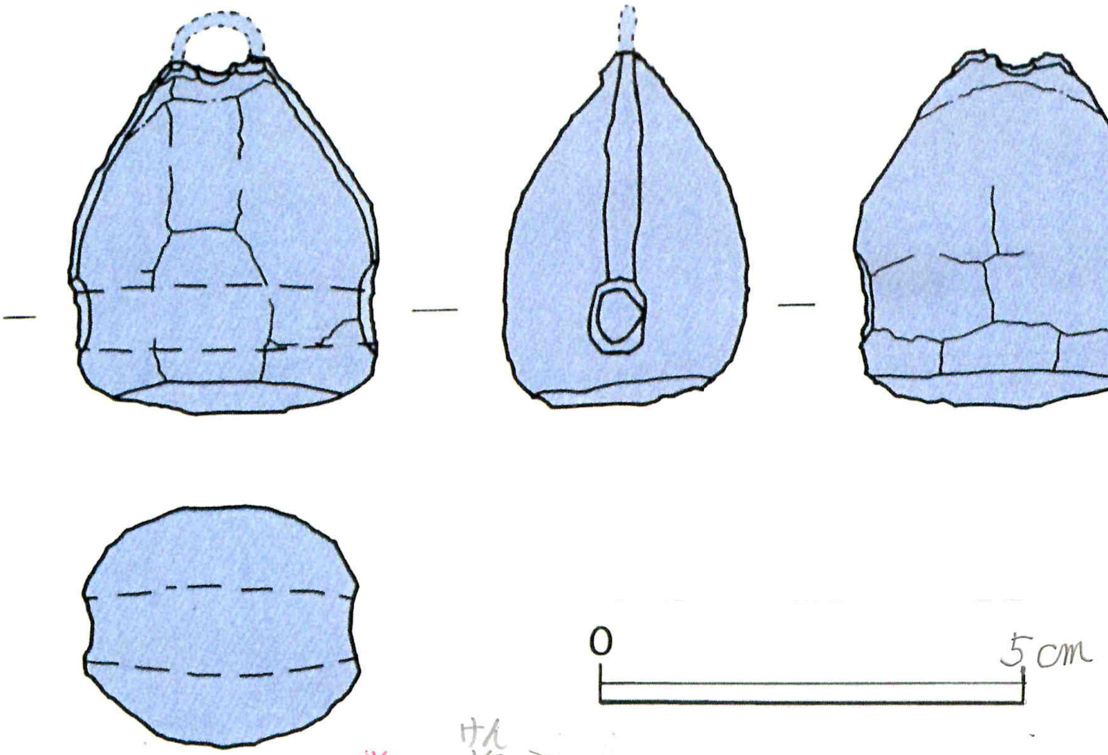
新や(1)-351頁

~~上部分にはみ出して~~

右頁上部に（はみ出して）載せる。

トル

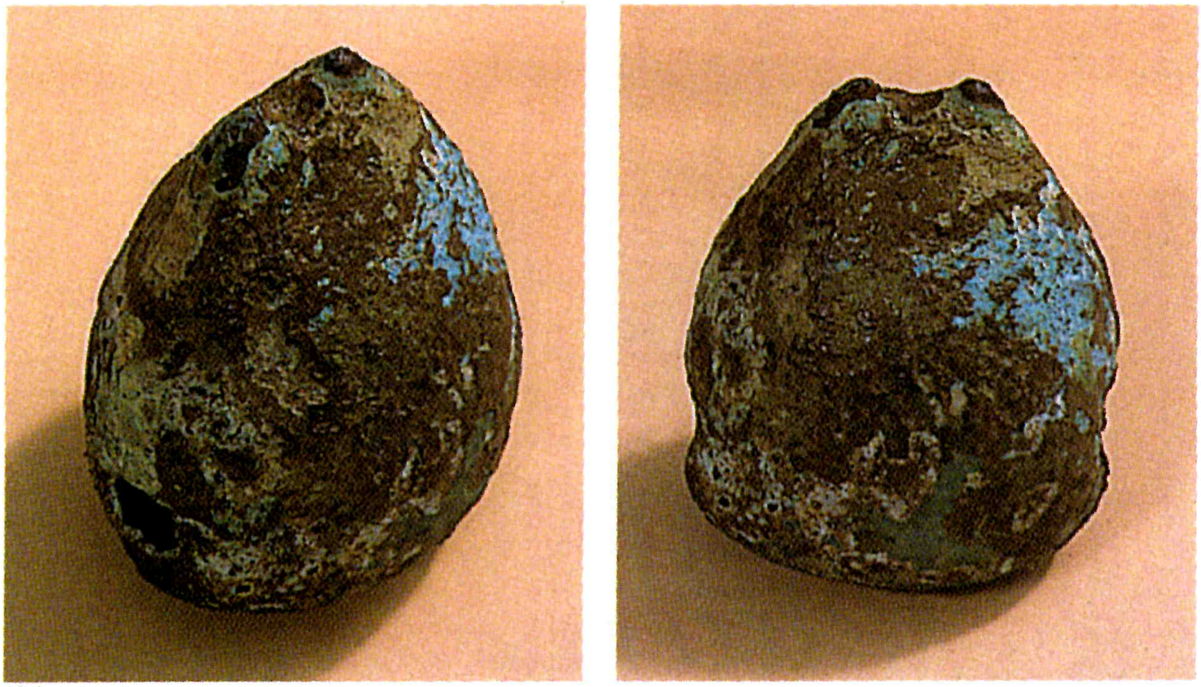
~~初校ゲラの段階で、図面をトレースして下さい。~~



ゴ4 13QG ― 権（けん）実測図 ― 中心ふりわけ

1489P-4/5

902



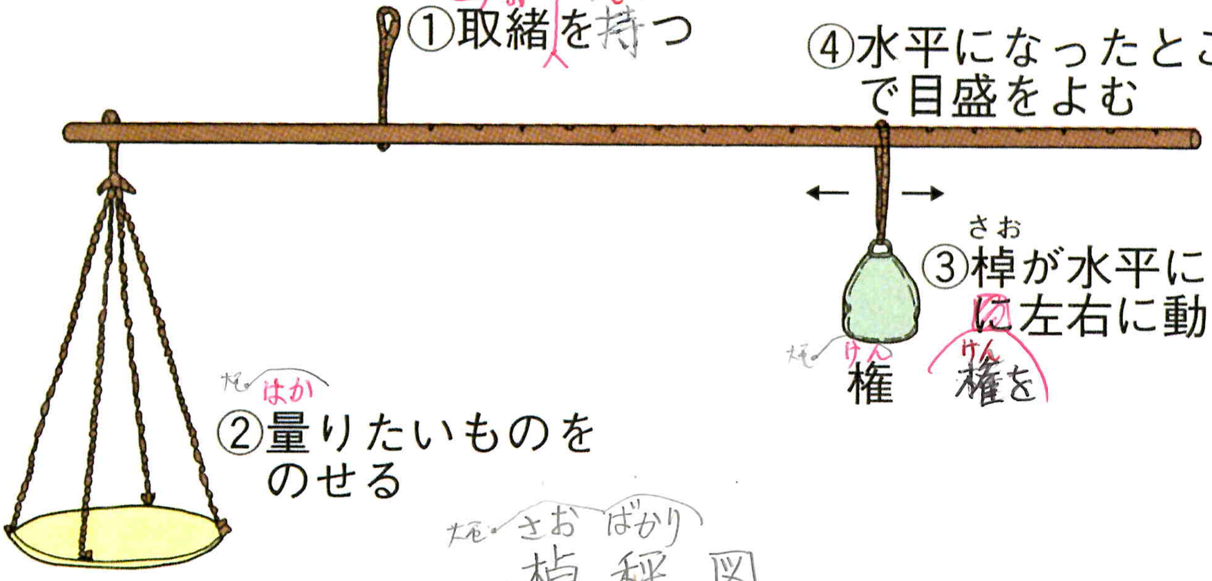
ゴ4 14QG 中心ふりわけ

写真図版 228 ― **権（けん）**（原地区）（改行）12QG 弥生時代後期、高さ4.3cm、重さ150g

ゴ4 13QG 『壱岐（いき）・原（はる）の辻（つじ）遺跡』長崎県教育委員会、平成14年7月発行、11頁参照。

左頁の上半分に掲載して下さい。

トル ~~トレースして下さい。~~


（秤竿（はかりざお）の紐（ひも））
①取緒（とりお）を持（も）つ
④水平になったところ
で目盛をよむ
③棹（さお）が水平になるよう
に権（けん）を左右に動かす
権（けん）
②量（はか）りたいものを
のせる

棹秤図（さおばかり）

13Qゴチ
中心ふりわけ

1,489P-5/5

903

青銅器（武器・銅鐸など）『銅（どう）』と『錫（すず）』を
厳密に計量していた に相違ない 4.5cm 縄文時代にも

1,490P ― 1/6

前300
± 2013
2,300

弥生（やよい）前期の石製（せきせい）「分銅（ぶんどう）」

均等

■弥生（やよい）時代の大規模集落跡（しゅうらくあと）として知られる「亀井（かめい）遺跡」（大阪府八尾（やお）・大阪両市にまたがる）で出土した弥生（やよい）時代前期の石製品（せきせいひん）十一点が、天秤（てんびん）を使（つか）って重（おも）さを量（はか）る国内最古（こくないさいこ）の「分銅（ふんどう）」だったと分かった。（写真図版229 第27表参照）

・計量制度（けいりょうせいど）の歴史や弥生（やよい）時代の実像（じつぞう）に迫（せま）る重（じゅう）要（よう）な資料（しりょう）として注目（ちゅうもく）されている。

■大阪府文化財センターなどが一九八一年に実施（じっし）した近畿自動車道建設に伴（ともな）う発掘調査で、長さ約一メートル、深さ約十センチの長方形大（だい）の穴（あな）から、砥石（といし）や石杵（いしきね）と一緒（いっしょ）に出土（しゅつど）。

・石製品（せきせいひん）十一点は、長さ約3～8センチ、幅（はば）約1～4・5センチのほぼ円柱形（えんちゅうけい）。砂岩（さがん）か輝緑岩（きりょくがん）が中心（ちゅうしん）で、全面（ぜんめん）が丁寧（ていねい）に磨（みが）かれていた。

■これまでは、何（なに）かを潰（つぶ）す「擂石（すりいし）」と考えられていたが、――奈良文化財研究所の森本（もりもと）晋（すすむ）・国際遺跡研究室長が平成二十四年、十一

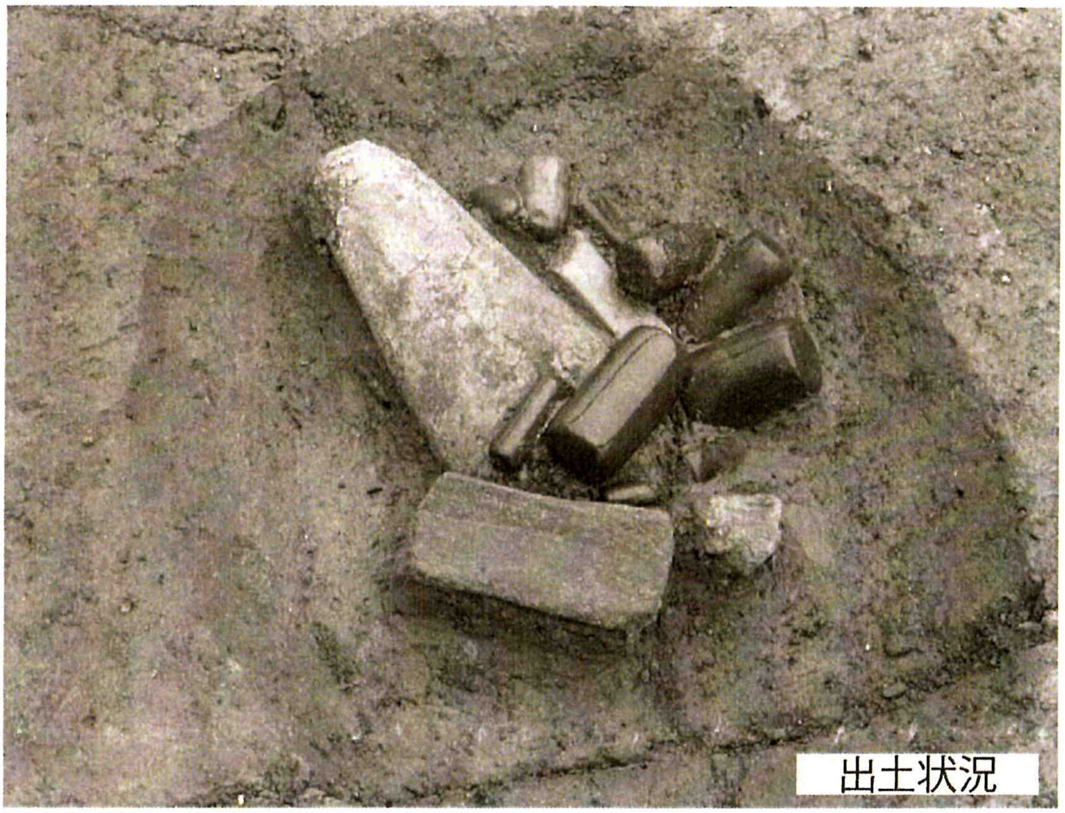
コクヨ ケー20 20×20

904

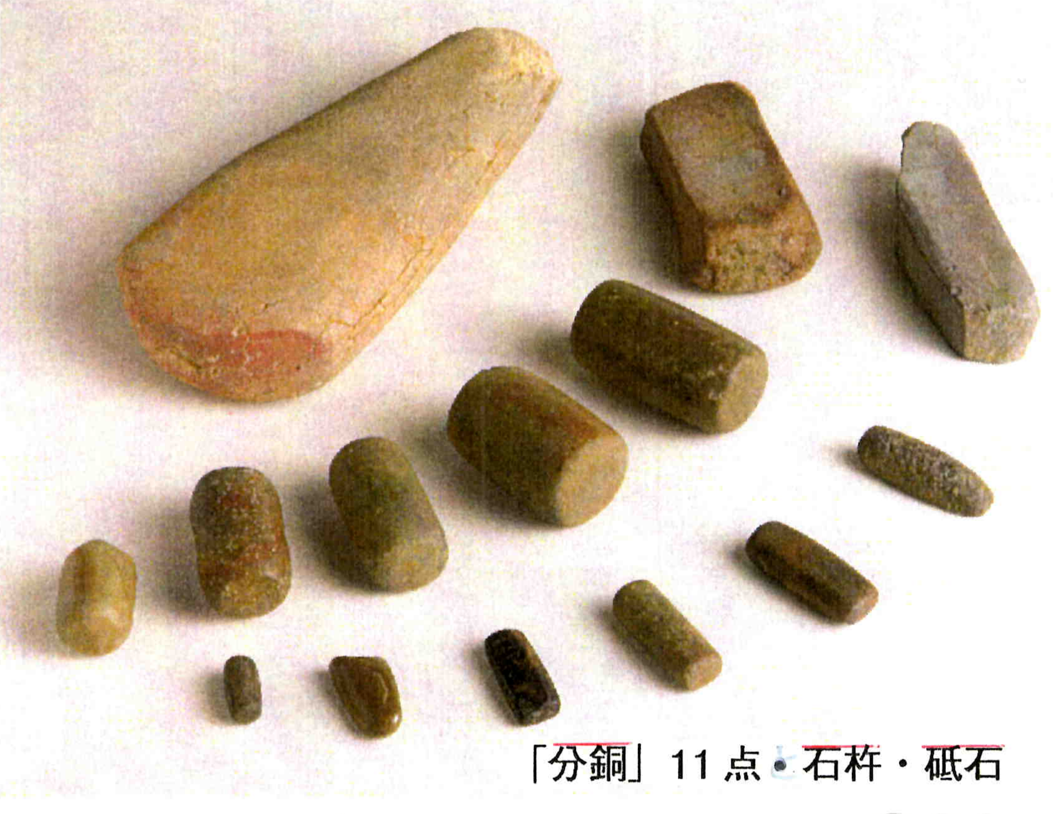
パンフレット1頁と ルビ有る　他 輝岩（きかん） 輝石を主成分の火成岩
行ミ 国内最古の「分銅」の発見とその意義 個にルビ

・右頁全面に限度一杯
大きく掲載
下さい。

・カラー


出土状況

1,490P-7/6


「分銅」11点・石杵・砥石

ルビをつけて下さい!
ふんどう
いしきね
といし

ゴチ
14QG

写真図版229 大阪・亀井（かめい）遺跡で出土した「弥生前期の石製品（せきせいひん）」

13QGゴチ

『国内最古の「分銅（ふんどう）」の発見とその意義（いぎ）』大阪府立弥生文化博物館
「平成25年度 スポット展示」参照。

半角アキ

・左頁上の段に掲載
・全て、ゴチ

14QG 第27表 **出土石製品（せきせいひん）の重さ** ― 中心ふりわけ 14QGゴチ

12QG （※森本晋氏の調べ） ― 12QGゴチ 中心ふりわけ

	重さ	Aの倍数
（A）	8.7グラム	1.00
（B）	17.6グラム	2.02
（C）	17.6グラム	2.02
（D）	32.1グラム	3.69
	（未完成品か）	
（E）	34.5グラム	3.97
（F）	35.4グラム	4.07
（G）	68.9グラム	7.92
（H）	134.7グラム	15.48
（I）	139.8グラム	16.07
（J）	276.5グラム	31.78
（K）	280.0グラム	32.18

13QG
『朝日新聞』平成25年7月3日付〈大阪・亀井（かめい）遺跡出土、弥生前期の石製品（せきせいひん）「国内最古の「分銅（ふんどう）」〉参照。

1490'－3/6

点の重さ分析した結果、最軽量の8・7グラムから最重量の280グラムまで、それぞれほぼ同じ重量を持つ計6グループに分類できた。

・最軽量の8・7グラムを基準にした場合、2、4、8、16、32倍と2の累乗倍に近かったことから、……石製品は重さの基準の「分銅」だったと断定。

・1点は未完成品で、本来は2セットあったとみる。

■一緒に出土した石杵には、~~貴重な~~顔料の「水銀朱」が付着しており、森本氏は、「貴重な水銀朱の重さを厳密に量っていたのではないか。弥生時代の日本にはすでに、精緻な計量を必要とする高度な社会システムが存在した可能性がある」と分析する。

■これまで（平成二十五年七月三日まで）の日本国内最古の〈おもり〉は、長崎県壱岐島~~の~~「原の辻遺跡」で見つかった青銅製の「権」（竿秤のおもり、弥生時代後期）とされてき

コクヨ　ケ－20　20×20

次頁13行

1,490P−5/6　OK 第4表 秦の天下統一

中央アジア　タリム盆地からカスピ海に至る内陸乾燥地域

た。

■一方、世界では、古（ふる）くから交易（こうえき）が盛（さか）んだった中（ちゅう）東（とう）や中央アジアなどで計量制度（けいりょうせいど）が発達（はったつ）。

・古代オリエント博物館（東京都）の堀晄（あきら）・元研究部長（中央アジア・西アジア考古学）によると、世界最古（さいこ）の分銅（ぶんどう）は中央アジアで出土した紀元前四千年ごろのものとみられ、重（おも）さも亀井（かめい）遺跡の「分銅（ぶんどう）」と同（おな）じ２の累乗倍（るいじょうばい）だった。

・中国各地でも、春秋（しゅんじゅう）・戦国（せんごく）時代（前七七〇〜前二二一）には制度（せいど）が確立（かくりつ）していたとされる、という。（「朝日新聞」平成二十五年七月三日付〈大阪・亀井遺跡出土、弥生前期の石製品、「国内最古の「分銅（ぶんどう）」〉参照）

＊

908　OK 第4表 新や(1)−83頁　ルビ有る

チェック⑭ H30（2018）3.27(火)～3.28（4回） 令和2（2020）9.15(火)～9.19（4回）
H30（2018）12.31(月)～H31.1.1（3回）
令和元（2019）6.3(月)～6.3（3回）
令和2（2020）1.7(火)～1.8（4回）
令和3（2021）[illegible]（2回）

9/19 1下 9/17 9/16

1490P－6/6

縄文晩期に日本列島へ渡来した
(1)－309P下末行

(2)－205P下

(2)－204P

■第四章「謎の衰退」において述べた通り、

「弥生中期末まで近畿地方で栄えていた多数の集落は、弥生後期に入った途端、一斉に

（改行）衰退してしまう。亀井遺跡（八尾市）も、そうした遺跡の一つである」

という。

・とすれば、亀井遺跡の地には、扶余系殷民の子孫達が住んでいたのだろうと思われる。

・~~[illegible]~~（トル）確証は無いものの、

「縄文時代晩期に渡来した扶余系殷民の子孫達は、日本列島へやってきた当初から《青銅器鋳造の際「銅」と「錫」を《石製の分銅》で厳密に計量していた」

と推測される。

あるいは《権》（写真図版228参照）など

1489P 4/5

■また、あえて述べると、

「亀井遺跡で出土した《石製分銅》の起源は、……青銅器の鋳造を行なっていた「殷の時代に遡るのではなかろうか」

（トル）とも想像される。（要検討）

※但し、殷の時代の分銅が確認されるまでは明言できない。

推測される。であろう

909

思われる だろう

干支表

1 甲子（きのえね）	2 乙丑（きのとうし）	3 丙寅（ひのえとら）	4 丁卯（ひのとう）	5 戊辰（つちのえたつ）	6 己巳（つちのとみ）	7 庚午（かのえうま）	8 辛未（かのとひつじ）	9 壬申（みずのえさる）	10 癸酉（みずのととり）	11 甲戌（きのえいぬ）	12 乙亥（きのとい）	13 丙子（ひのえね）	14 丁丑（ひのとうし）	15 戊寅（つちのえとら）	16 己卯（つちのとう）	17 庚辰（かのえたつ）	18 辛巳（かのとみ）	19 壬午（みずのえうま）	20 癸未（みずのとひつじ）	21 甲申（きのえさる）	22 乙酉（きのととり）	23 丙戌（ひのえいぬ）	24 丁亥（ひのとい）	25 戊子（つちのえね）	26 己丑（つちのとうし）	27 庚寅（かのえとら）	28 辛卯（かのとう）	29 壬辰（みずのえたつ）	30 癸巳（みずのとみ）	31 甲午（きのえうま）	32 乙未（きのとひつじ）	33 丙申（ひのえさる）	34 丁酉（ひのととり）	35 戊戌（つちのえいぬ）	36 己亥（つちのとい）	37 庚子（かのえね）	38 辛丑（かのとうし）	39 壬寅（みずのえとら）	40 癸卯（みずのとう）	41 甲辰（きのえたつ）	42 乙巳（きのとみ）	43 丙午（ひのえうま）	44 丁未（ひのとひつじ）	45 戊申（つちのえさる）	46 己酉（つちのととり）	47 庚戌（かのえいぬ）	48 辛亥（かのとい）	49 壬子（みずのえね）	50 癸丑（みずのとうし）	51 甲寅（きのえとら）	52 乙卯（きのとう）	53 丙辰（ひのえたつ）	54 丁巳（ひのとみ）	55 戊午（つちのえうま）	56 己未（つちのとひつじ）	57 庚申（かのえさる）	58 辛酉（かのととり）	59 壬戌（みずのえいぬ）	60 癸亥（みずのとい）
177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118
117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	崇神即位 97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	崇神崩 30	垂仁即位 29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	前1	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123
124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183
184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243
244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303
304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363
364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423
424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483
484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	磐井の乱 527	528	529	530	日本天皇・皇子死 531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543
544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603
604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663
664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723
724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783
784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843
844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903
904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963

910

図・表・写真図版索引

図：

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
1	1	36	51	1	361	101	2	102	151	2	307
2	1	37	52	1	372	102	2	104	152	2	322
3	1	58	53	1	376	103	2	105	153	2	323
4	1	71	54	1	377	104	2	107	154	2	326
5	1	84	55	1	385	105	2	108	155	2	327
6	1	85	56	2	9	106	2	112	156	2	328
7	1	86	57	2	10	107	2	119	157	2	329
8	1	87	58	2	11	108	2	124	158	2	335
9	1	90	59	2	12	109	2	126	159	2	360
10	1	91	60	2	13	110	2	126	160	2	363
11	1	92	61	2	15	111	2	128			
12	1	96	62	2	17	112	2	134			
13	1	97	63	2	17	113	2	135			
14	1	100	64	2	18	114	2	137			
15	1	101	65	2	19	115	2	138			
16	1	103	66	2	23	116	2	146			
17	1	116	67	2	24	117	2	147			
18	1	134	68	2	30	118	2	149			
19	1	135	69	2	31	119	2	152			
20	1	143	70	2	33	120	2	170			
21	1	160	71	2	35	121	2	172			
22	1	167	72	2	35	122	2	172			
23	1	170	73	2	35	123	2	173			
24	1	194	74	2	34	124	2	174			
25	1	203	75	2	34	125	2	174			
26	1	218	76	2	34	126	2	177			
27	1	219	77	2	41	127	2	177			
28	1	220	78	2	44	128	2	180			
29	1	248	79	2	46	129	2	181			
30	1	277	80	2	50	130	2	185			
31	1	279	81	2	51	131	2	186			
32	1	281	82	2	54	132	2	194			
33	1	282	83	2	55	133	2	200			
34	1	284	84	2	57	134	2	214			
35	1	286	85	2	60	135	2	219			
36	1	295	86	2	61	136	2	225			
37	1	306	87	2	69	137	2	241			
38	1	306	88	2	73	138	2	242			
39	1	306	89	2	74	139	2	249			
40	1	306	90	2	74	140	2	260			
41	1	306	91	2	75	141	2	264			
42	1	306	92	2	80	142	2	270			
43	1	311	93	2	82	143	2	281			
44	1	314	94	2	83	144	2	288			
45	1	315	95	2	87	145	2	289			
46	1	318	96	2	89	146	2	291			
47	1	325	97	2	94	147	2	293			
48	1	352	98	2	95	148	2	299			
49	1	352	99	2	96	149	2	300			
50	1	360	100	2	99	150	2	303			

表：

番号	巻	頁
1	1	29
2	1	38
3	1	39
4	1	83
5	1	113
6	1	114
7	1	148
8	1	148
9	1	156
10	1	182
11	1	319
12	2	22
13	2	218
14	2	329
15	2	368

写真図版：

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
1	1	63	51	2	86	101	2	319
2	1	120	52	2	87	102	2	333
3	1	120	53	2	120	103	2	333
4	1	136	54	2	121	104	2	339
5	1	137	55	2	122			
6	1	138	56	2	124			
7	1	162	57	2	129			
8	1	164	58	2	144			
9	1	171	59	2	148			
10	1	183	60	2	161			
11	1	275	61	2	166			
12	1	293	62	2	167			
13	1	318	63	2	167			
14	1	321	64	2	170			
15	1	327	65	2	177			
16	1	327	66	2	179			
17	1	327	67	2	183			
18	1	327	68	2	183			
19	1	344	69	2	184			
20	1	351	70	2	190			
21	1	355	71	2	190			
22	1	355	72	2	191			
23	1	356	73	2	191			
24	1	357	74	2	194			
25	1	357	75	2	194			
26	1	359	76	2	196			
27	1	365	77	2	201			
28	1	366	78	2	202			
29	1	370	79	2	204			
30	1	370	80	2	205			
31	1	371	81	2	208			
32	1	374	82	2	229			
33	1	376	83	2	230			
34	1	383	84	2	232			
35	1	383	85	2	233			
36	1	396	86	2	234			
37	2	14	87	2	235			
38	2	26	88	2	239			
39	2	47	89	2	250			
40	2	52	90	2	253			
41	2	52	91	2	255			
42	2	52	92	2	255			
43	2	54	93	2	262			
44	2	55	94	2	263			
45	2	57	95	2	267			
46	2	58	96	2	276			
47	2	58	97	2	292			
48	2	63	98	2	294			
49	2	75	99	2	311			
50	2	84	100	2	314			

図

番号	巻	頁
161	3	16
162	3	51
163	3	83
164	3	143
165	3	194
166	3	239
167	3	242
168	3	261
169	3	281
170	3	282
171	3	283
172	3	284
173	3	289
174	3	292
175	3	295
176	3	296
177	3	303
178	3	306
179	3	307
180	3	314
181	3	315
182	3	346
183	3	349
184	3	356
185	3	361
186	3	362
187	3	363
188	3	365
189	3	384
190	3	388
191	3	389
192	3	393
193	3	418
194	3	441
195	3	442
196	3	473
197	3	474
198	3	475
199	3	485
200	3	486
201	3	489
202	3	490
203	3	493
204	3	512
205	3	514
206	3	515
207	3	522
208	3	595
209	3	601
210	3	603
211	3	610
212	3	620
213	3	636
214	3	641
215	3	642
216	3	643
217	3	651
218	3	652
219	3	685
220	3	688
221	3	689
222	3	690
223	3	691
224	3	696
225	3	788
226	3	844

表

番号	巻	頁
16	3	19
17	3	24
18	3	44
19	3	202

写真図版

番号	巻	頁
105	3	39
106	3	40
107	3	52
108	3	67
109	3	68
110	3	84
111	3	85
112	3	88
113	3	104
114	3	107
115	3	195
116	3	196
117	3	212
118	3	213
119	3	246
120	3	250
121	3	252
122	3	255
123	3	256
124	3	256
125	3	256
126	3	257
127	3	260
128	3	261
129	3	261
130	3	268
131	3	268
132	3	269
133	3	272
134	3	299
135	3	316
136	3	317
137	3	320
138	3	344
139	3	348
140	3	351
141	3	354
142	3	364
143	3	364
144	3	382
145	3	396
146	3	401
147	3	407
148	3	408
149	3	409
150	3	410
151	3	412
152	3	419
153	3	419
154	3	420
155	3	421
156	3	425
157	3	429
158	3	430
159	3	431
160	3	432
161	3	433
162	3	434
163	3	436
164	3	439
165	3	441
166	3	444
167	3	447
168	3	479
169	3	491
170	3	504
171	3	519
172	3	526
173	3	533
174	3	545
175	3	599
176	3	599
177	3	605
178	3	606
179	3	613
180	3	618
181	3	619
182	3	621
183	3	622
184	3	624
185	3	631
186	3	645
187	3	653
188	3	697
189	3	697
190	3	697
191	3	698
192	3	699
193	3	733
194	3	734
195	3	738
196	3	755
197	3	853

図

番号	巻	頁
227	4	41
228	4	78
229	4	87
230	4	99
231	4	105
232	4	173
233	4	174
234	4	181
235	4	201
236	4	213
237	4	232
238	4	267
239	4	381
240	4	511
241	4	535
242	4	540
243	4	541
244	4	555
245	4	567
246	4	568
247	4	569
248	4	570
249	4	611
250	4	647
251	4	675
252	4	680
253	4	801
254	4	814
255	4	831
256	4	838
257	4	839
258	4	847
259	4	848
260	4	849
261	4	855
262	4	865

表

番号	巻	頁
20	4	37
21	4	135
22	4	358
23	4	377
24	4	654
25	4	808
26	4	817
27	4	893
28	4	906

写真図版

番号	巻	頁
198	4	44
199	4	65
200	4	108
201	4	111
202	4	112
203	4	113
204	4	122
205	4	175
206	4	182
207	4	183
208	4	419
209	4	420
210	4	425
211	4	490
212	4	491
213	4	501
214	4	503
215	4	543
216	4	580
217	4	603
218	4	604
219	4	652
220	4	701
221	4	702
222	4	835
223	4	846
224	4	859
225	4	892
226	4	893
227	4	897
228	4	902
229	4	905

〔著者紹介〕

こ が けいさく
古関炯作

昭和１６年（1941 年）５月に生まれる。

著書

・『小野小町』第１刷、第２刷。㈱新人物往来社〔現在、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ〕。
（『新・やまと物語』の末尾あたりから一部抜粋）
＊第２刷（９１頁）「第九十三章」から読んでいただきたいと思います。
興味深い筋書きとなっています。

・『新・やまと物語』第一巻・第二巻まで刊行。株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ。

・『新・やまと物語』第三巻以降は、インターネットで、閲覧ください。

3 〃 11.18 頁チェック OK 由
令和3(2021) 11.4 頁チェックスミ 由